

## 次期環境基本計画の方向性、構成（案）について

- 施策の継続と着実な推進の観点から、現行計画の枠組みを基本軸としつつ、「審議会・部会意見」や「上位計画」を踏まえた内容としていく。
- 2050年の将来像（目指す姿）と、それに向けて2030年までに短期的・重点的に取り組む施策の方向性を示す。（具体的な施策・取組は、環境分野の個別計画（地球温暖化対策・資源循環・生物多様性）において別に示す。）
- 客観的指標は2030年度目標の達成を主眼とし、主観的指標は中長期的観点から2030年度以降も見据えた内容を検討する。
- 移り変わる時代の中、京都市全体では、担い手不足や活かしきれていないポテンシャルがあるなどの課題があるとともに、環境分野においては、担い手不足だけでなく、活動資源の確保、温室効果ガス排出量の削減ペースの鈍化といった課題のほか、プラごみ対策をはじめとした資源循環の一層の推進が求められている。これらを解決するため、また、将来世代への健全で恵み豊かな環境の継承と持続可能な都市の形成という基本理念の実現に向けて、次期環境基本計画では、「更なる脱炭素化、資源循環の推進、生物多様性の保全・回復の一体的実施」や「環境・経済・社会の統合的な課題解決による、生活の質の向上、都市の成長」、「市民一人ひとりの意識改革」に向けた、今後の環境行政の方向性を掲げる。

【現行計画の構成】 ※現行計画冊子の目次順		【次期環境基本計画の構成（案）】
■ 基本的事項 計画の目的・位置づけ等	⇒	■ 基本的事項 計画の目的・位置づけ等
■ 基本理念	⇒	■ 基本理念
■ 環境像 ※京都市基本計画で掲げる未来像の1つ 地球環境に暮らしが豊かに調和する『環境共生と脱炭素のまち・京都』	⇒	（「環境像」という呼び方も含め整理） 新たな観点：ウェルビーイング、AI・テクノロジー ※新京都戦略（柱5） 豊かな自然・歴史的景観と地域の魅力を活かした「自然環境と調和する持続可能なまち」
■ 施策体系	⇒	■ 施策体系
■ 環境配慮指針	⇒	■ 環境配慮指針 本市の課題の解決や、可能性（ポテンシャル）の活用に向けた、新たな指針を作成（名称や位置付けも検討）
■ 進行管理	⇒	■ 進行管理

次期環境基本計画の方向性、構成（案）について

現行計画の構成	方向性、記載内容のイメージ	左記の考えに至る 審議会・部会意見等との紐づけ	分野別計画との 棲み分け
<p>&lt;基本的事項&gt; ○計画の目的・位置づけ等 環境基本計画の策定根拠、策定目的、策定による役割・機能を示す。</p>	<p>(1) 京都市環境基本条例（平成9(1997)年4月施行）第9条の規定に基づき、環境の保全に関する長期的な目標及び個別の分野の施策の大綱（基本施策）などを示す環境行政のマスタープランである。</p> <p>(2) 「長期ビジョン（次期京都市総合計画）」の分野別計画であるとともに、環境分野の分野別計画の上位計画として施策の方向性を示す。（具体的な施策・取組は、環境分野の分野別計画において別に示す。）</p> <p>(3) 上位計画等や、環境の分野別計画の計画期間を鑑み、2050年の長期的目標・基本方針を掲げるとともに、具体的取組及び進行管理の対象期間は5年間（2026-2030）とする。</p> <p>※現行記載（中間見直し時に追記）の「新型コロナウイルス感染症」関連は削除する。</p>	<p>(1) 本市整理</p> <p>(2) 本市整理</p> <p>(3) 審議会・部会意見（別紙の「1(4)」）に関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい時代の環境を盛り上げていく考えでいくと、計画年次が2030年までというのは少し早い。</li> <li>・取組の方向性を2030年と2050年に分けたことは非常に良い。さらに、客観的指標は2030年、主観指標は2050年を見据えるということで、ウェルビーイングはすぐに達成されるものでもないため、はっきりとした方向性が示されている。</li> </ul>	

現行計画の構成	方向性、記載内容のイメージ	左記の考えに至る 審議会・部会意見等との紐づけ	分野別計画との 棲み分け
<p>&lt;基本理念、環境像&gt;</p> <p>○基本理念 本市環境行政推進の根底であり、市民・事業者の皆様と一体となって取り組むための根本的な考え方を示す。</p> <p>○環境像 基本理念に基づき、環境面から見たまちのあり方の目標像として、市民の皆様と共通認識としていただくために示す。</p>	<p>(1) 基本理念については、環境基本条例に掲げる内容を基本とし、まち全体のありかたについては上位計画等（長期ビジョン（次期京都市基本計画）、新京都戦略）との整合も図る。</p> <p>(2) 環境像について ※「環境像」という呼び方も含め整理を図る。</p> <p>①市民・事業者の皆様と、環境面から見たまちのあり方の目標像の具体性を持っていただくとともに、上位計画・分野別計画との整合を図るため、2050年の姿とする。</p> <p>②生物多様性プランの「自然を慈しみ」や、地球温暖化対策計画における「将来の世代が夢を描ける」（→<b>参考資料2</b>①）といった、ウェルビーイングの観点から大事な、人の営みと関連深い要素を組み込むことを検討する。</p> <p>③京都の課題や社会問題を統合的に解決し、京都のまちの魅力向上に向けた観点を含めたものとする。</p> <p>④今後の社会変革に合わせて対応が必要となるAIやテクノロジーの発展の観点を含める。</p> <p>⑤市民や事業者の皆様がイメージしやすくなるよう、ワークショップなどを実施し、具体化を図る。</p> <p>⑥滞在者の方とも共有できるものになるかを検討する。</p> <p>⑦大きな考え方については、可能な限り将来の状態である環境像に組み込むが、記載になじまないものは、「将来像に向けて」といった別項を立てて説明する。</p>	<p>(1) 上位計画等の状況に関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然への畏敬と感謝を抱けるまち【長期ビジョン】</li> <li>・豊かな自然・歴史的景観と地域の魅力を活かした「自然環境と調和する持続可能なまち」【新京都戦略】</li> </ul> <p>(2) 上位計画等の状況に関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三位一体、環境・経済・社会の統合的な課題解決【新京都戦略、市政の点検結果】</li> </ul> <p>(2) 審議会・部会意見（別紙「1(2)」）に関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境を活かした取組が、社会問題（少子高齢化等）の解決につながる。</li> <li>・基本理念に基づく環境像を、長期ビジョンとの位置付けを意識して考えられている部分は良い。長期ビジョンは格調高く抽象的な文言を使い、長期をイメージする意味では良い。</li> <li>・現行計画と次期計画を考えたとき、ウェルビーイング、観光、AI・テクノロジーが新しい観点となる。</li> <li>・環境・経済・社会の統合的な課題解決として、経済が成長しても環境負荷が増えない、むしろ減るということを位置付け、それを政策目標とすることが良いと思う。</li> </ul>	

現行計画の構成	方向性、記載内容のイメージ	左記の考えに至る 審議会・部会意見等との紐づけ	分野別計画との 棲み分け
<p>＜施策体系＞</p> <p>■全体の枠組み (4つの長期的目標と、関連する指標、10の基本施策により構成)</p> <p>■構成要素</p> <p>○分野別長期的目標 各分野において実現していく姿(方向性)を見出しと文章により示す。</p> <p>○環境指標 (→資料3-2) 施策・取組の状況を客観的な数値で評価する「客観的指標」と、市民の皆様の実感に係るアンケート調査により評価する「主観的指標」があり、計画の点検・評価においては、両面から総合的な評価を行う。</p> <p>○基本施策 分野別長期的目標の実現に向けての施策の方向性を見出しと文章により示す。</p>	<p>(1) 2050年の環境像や、分野別計画中間見直しの検討状況との整合を図る。4つの柱(3分野+ひと・しくみづくり)は継承する。なお、AI・テクノロジーなどの社会変革に対応する大きな方向性を将来像と関連して記載するとともに、「観光」など複数の基本施策にまたがる取組を一覧して見せる必要があるものを別途まとめて記載する。</p> <p>(2) 分野別長期的目標には、2050年の目指す姿と、その実現のために必要となる取組について記す。取組については、必要に応じて2030年以降もイメージした、長期的に取り組んでいく内容も記載する。</p> <p>(3) 環境指標は、主観的指標については、可能な限り2050年をイメージした長期的な目標の実現状況を把握しようとするものにするとともに、客観的指標については2030年を進行管理上の目標年次とする。</p> <p>(4) 基本施策については ①2030年までに取り組む内容を基本とする。 ②新京都戦略で掲げる短期的重点戦略のリーディングプロジェクトを盛り込む。</p>	<p>(1) 審議会・部会意見(別紙「1(1)」)に関連 ・現行計画の枠組みを大きくは変えずに、マイナーチェンジや基本軸にしながら少しずつ更新。 ・従来計画を基礎にしつつ、加えて新しい観点を持つ。</p> <p>(2) 審議会・部会意見(別紙「1(4)」)に関連 ・新しい時代の環境を盛り上げていく考えでいくと、計画年次が2030年までというのは少し早い。 ・取組の方向性を2030年と2050年に分けたことは非常に良い。さらに、客観的指標は2030年、主観的指標は2050年を見据えるということで、ウェルビーイングはすぐに達成されるものでもないため、はっきりとした方向性が示されている。</p> <p>(3) 審議会・部会意見(別紙「1(2)」)に関連 ・環境に携わることがウェルビーイングに繋がるということをわかりやすく示すことが大事。環境改善を感じている人ほどウェルビーイングが高いという関連性が見られるような指標により、その繋がりが示せる。それを京都市でできれば画期的な例になる。</p> <p>(4) 上位計画等の状況に関連 ・京都の自然の素晴らしさを身近に感じ、愛着を深める取組を推進するなど、市民・事業者・観光客などの多様な人々が自然に触れる機会を創出【新京都戦略】 ・「豊かな脱炭素社会」を実現し、生態系や水、大地・森林など、みんなの財産である自然環境の保全と同時に経済価値を創出するため、サーキュラーエコミーを体現したビジネスモデルの創出【新京都戦略】</p>	<p>分野別計画見直しの積み上げを踏まえる</p>
	<p>※「観光」など、複数の基本施策にまたがる取組を一覧して見せる必要があるものをまとめて記載する。</p>	<p>※審議会・部会意見(別紙「1(2)」)に関連 ・観光は重要な観点である。環境・経済・社会の統合を踏まえると、観光という観点も考える必要がある。</p>	

現行計画の構成	方向性、記載内容のイメージ	左記の考えに至る 審議会・部会意見等との紐づけ	分野別計画との 棲み分け
<p>&lt;環境配慮指針&gt; ○各主体（市民、事業者、本市）の環境配慮指針</p> <p>市民、事業者の皆様が、日々の暮らしの中で実践可能な環境に配慮した行動を促進するために示す。 併せて、本市の環境配慮の基本的内容を示す。</p>	<p>(1) 本市の課題（担い手不足、ポテンシャル活用）の解決や、可能性（人的資源の厚さ（新しい公共）、各地域特性の創出、三位一体）の促進に向けた、新たな指針を作成する。ただし、名称や位置付けも含め検討する。</p> <p>(2) 主体別指針 <b>資料5参照</b></p> <p>① 施策体系の記載までは、本市主導の内容を掲げており、市民、事業者から見ると、自分事になりづらいイメージがあるため、市民、事業者主導の、実践につながる行動を例示としてお示しする。</p> <p>② 加えて、自分に合ったものを選択して取り組むことができるように多様な取組を掲げる。</p> <p>③ また、「食」や「プラスチック」といった種類や、環境の要素（脱炭素・生物多様性・資源循環・環境教育）別に得られる価値を整理し、分野のつながりが理解できるようなものにする。</p> <p>④ 滞在者の取組も検討する。</p> <p>(3) 土地種類別指針 <b>※次回部会報告</b></p> <p>① 土地から得られる環境の恵みが高まるような配慮の指針を示す。</p> <p>② 森林・農地・水域・緑地といった土地の種類ごとに、環境の要素（脱炭素・生物多様性・資源循環・環境教育）別に得られる環境の恵み（ポテンシャル）を整理し、土地のあり方を活かした、その恵みの価値を高めていくための指針を定める。</p> <p>(4) いずれの指針も硬直的なものとならないよう、継続的に改善・更新していくようなものとするを指す。</p>	<p>(1) 上位計画等の状況に関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>担い手不足、ポテンシャル活用、新しい公共、三位一体【新京都戦略】</li> </ul> <p>(2) 審議会・部会意見（別紙「2(1)」）に関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>滞在者に対しては、「これをしてはダメです」というよりも、「この行動をしてくれたあなたは、京都を守るためにこういう貢献ができる、これが守られる」といったことを写真等で見せるだけでも全然違う。</li> </ul> <p>(3) 審議会・部会意見（別紙「2(2)」）に関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の特性が共有されることによって、どんな取組ができるのか、何を守るべきなのか、何をしたら貢献できるのかということが可能性として予測できる。</li> <li>温室効果ガス排出量の削減ペースの鈍化については、新しい建物など、インフラ部分への取組を行わないと達成が難しいと思うため、これを議論していくべき。これは土地種類別配慮指針にも関連する内容だと思う。</li> </ul> <p>(4) 本市整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指針を継続的に改善・更新していくためには、それぞれの詳細の内容は複数年計画に落とし込むことはなじまないと考えるため、計画本体とは別で作成し、普及啓発につなげていく。</li> </ul>	

現行計画の構成	方向性、記載内容のイメージ	左記の考えに至る 審議会・部会意見等との紐づけ	分野別計画との 棲み分け
<p>&lt;計画の進行管理&gt;</p> <p>○進行管理体制  条例に基づく進行管理の規定など、進行管理の実施方法について示す。</p> <p>○環境指標の活用  施策の進捗状況を、人々の意識や行動の状況等とともに、環境指標（主観的指標、客観的指標）を用い把握し、点検することで次年度以降の施策の在り方を検討する。</p>	<p>(1)PDCA サイクルによる計画の進行管理の考え方と、年次報告書の作成、環境審議会の意見聴取などの進行管理の実施方法について、現行計画を基本軸としつつ記載する。</p> <p>(2)主観的指標の把握に用いるアンケートについては、現行計画における各施策の進行管理のエビデンスとなる客観的指標を補完し、時節に応じた設問設定を行うことで、人々の意識や行動の状況を把握している。これについては、ウェルビーイング重視の観点からも役立つものであり、そのことを明記する。</p>	<p>(1) 審議会・部会意見（別紙「1(1)」）に関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行計画の枠組みを大きくは変えずに、マイナーチェンジや基本軸にしなから少しずつ更新。</li> <li>・従来の計画を基礎にしつつ、加えて新しい視点を持つ。</li> </ul> <p>(2) 審議会・部会意見（別紙「1(2)」）に関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都市の環境基本計画の特徴として、主観的要素を評価要素に入れており、ウェルビーイングの向上という形で、滞在される方も含め、コミットしていただく。</li> <li>・環境に携わることがウェルビーイングに繋がるということを知りやすく示すことが大事。環境改善を感じている人ほどウェルビーイングが高いという関連性が見られるような指標により、その繋がりが示せる。それを京都市でできれば画期的な例になる。</li> </ul>	

## これまでの審議会・部会意見

## 1 次期環境基本計画の構成等について

## (1) 全体構成

- ・根本的に変えてしまうと、現在の課題が見えなくなってしまうので、大きくは変えずに、マイナーチェンジや基本軸にしながら少しずつ更新の方がふさわしい。
- ・従来の計画を基礎にしつつ、統合的な取組をしっかりと共通の軸として打ち出していき、加えて新しい視点を持つ。そして実際の取組を強化する、そうした見せ方をしていくのではないかな。

## (2) 方向性

## (ア) 環境・経済・社会の統合的解決

- ・2050年はこのような社会といった全体の方向性や、人、社会、経済との関わりではこのようなイメージといったことを書いて、それらが分野別の計画に入っていくのではないかな。
- ・環境を活かした取組が、社会問題（少子高齢化等）の解決につながる。
- ・（環境・経済・社会の統合的な課題解決の）統合の意味は、国の環境基本計画では「絶対的デカップリング」という用語を使っており、経済が成長しても環境負荷が増えない、むしろ減るということを意味している。生物多様性でいうとネイチャーポジティブへの転換であり、経済が成長しても生物多様性自体はマイナスにならず回復することを示している。統合をきちんと位置付け、それを政策目標とすることが良いと思う。

## (イ) ウェルビーイング（環境指標（主観的指標）ワークショップに関連）

- ・現行計画と次期計画を考えたとき、ウェルビーイングが新しい観点となると思う。
- ・長期に渡って住んでいる人たちと、深みに至るまでに京都を去ってしまう人がいる中のウェルビーイングとは何なのかというところが、イメージしづらい。皆さんにとってのウェルビーイングとは何なのかを見せていけるよう、作っていくと良いのではないかな。
- ・京都市の環境基本計画の特徴として、主観的要素を評価要素に入れており、ウェルビーイングの向上という形で、滞在される方も含め、コミットしていただく場を作っていくために、若者や流動的な方々をターゲットにした、ワークショップ等を含めた何らかのご意見を聞く機会をつくって反映させていく必要がある。
- ・環境に携わることがウェルビーイングに繋がるということを知りやすく示すことが大事である。環境改善を感じている人ほどウェルビーイングが高いという関連性が見られるような指標・データにより、その繋がりが示せる。それを京都市でできれば画期的な例になると思う。

## (ウ) 観光

- ・もう一つの重要な観点は観光である。環境・経済・社会の統合を踏まえると、観光という観点も考える必要があると思う。

## (エ) AI、テクノロジー

- ・現行計画から次期計画の間で非常に大きく変わったこととしてAI やテクノロジーの発展があると思う。そのため、サステナブルや環境と新しい技術の融合について、具体的に書かざるを得ないと思う。

## (3) 環境像（仮称）

- ・長期ビジョンとの位置付けを意識して考えられている部分は良いと思う。長期ビジョンは格調高く抽象的な文言を使い、長期をイメージする意味では良いと思う。

## (4) 計画期間

- ・新しい時代の環境を盛り上げていく考えでいくと、計画年次が 2030 年までというのは少し早い。
- ・取組の方向性を 2030 年と 2050 年に分けたことは非常に良いことだと思う。さらに、客観的指標は 2030 年、主観指標は 2050 年を見据えるということで、ウェルビーイングはすぐに達成されるものでもないため、はっきりとした方向性が示されていることに好感を持っている。

## 2 新たな観点について

### (1) 人、事業者の観点

- ・子どもから高齢者まで、海外からの留学生も含む人的資源の分厚さ。
- ・大学生などの若い世代が自分たちで動ける環境・しくみづくり。
- ・滞在者と共に、環境が作り出す京都の魅力を一緒に見出し高める。
- ・滞在者に対しては、「これをしてはダメです」というよりも、「この行動をしてくれたあなたは、京都を守るためにこういう貢献ができる、これが守られる」といったことを写真等で見せるだけでも全然違う。
- ・環境対応する企業や、環境に取り組むベンチャーを応援する機運醸成。
- ・交流機会の創出、活動支援、環境学習の推進。

### (2) 土地の観点

- ・空間的な多様性のゾーニングをして、特長を活かして伸ばす。
- ・地域の特性が共有されることによって、どんな取組ができるのか、何を守るべきなのか、何をしたら貢献できるのかということが可能性として予測できる。
- ・各地の特性を配慮指針で明らかにして、次はマップみたいなもので充実させていく。あるいは、様々なデータベースをポータルサイト化していくことによって見えてくる。そういうものがあると実は京都の文化が京都の環境に根差しているという、バイオカルチュラル（生態文化）という世界的な取組の先進的な事例となってくる。そこを支えるのがコミュニティあるいは様々な環境保全活動であるということを出せる。その部分を横断軸として打ち出したうえで、分野別計画があるといった見せ方は良いのではないか。
- ・「生態文化配慮指針」など、もう少し柔らかい言葉で、土地利用等、例えば森林等、そういうものを分けて示していくこととし、それらをポータルサイト等でまとめていく、そのように全部統合していくことで、社会と経済とか統合できていくような方向性ということも考えていければ。

- ・温室効果ガス排出量の削減ペースの鈍化については、新しい建物など、インフラ部分への取組を行わないと達成が難しいと思うため、これを議論していくべきだと思う。京都の都市計画においては、景観部分の取組は強いと思うが、景観以外の部分についてどこまで認識しているかということもあり、これらと連携していくことに力を入れた方が良いと思う。これは土地種類別配慮指針にも関連する内容だと思う。

### 3 その他

- ・循環フェスでは、衣類のリサイクル等を積極的に取り組まれているのが最近の特徴だと思う。アップサイクルの取組が浸透するように、古着に対してポジティブに評価する動きについても着目し、後押ししてほしい。
- ・使用済てんぷら油の利用の方がガソリン燃料と比較して値段的にはかなり高くなるが、バイオ燃料ということで活用されている。世の中では航空燃料としても使われているが、京都市がこれからどう進めていくのか、あるいは値段が高くなるからやめる等、そういった方向性も示すことができれば良いのではないかと思う。
- ・マイクロプラスチックは先進的な調査が行われていて、京都市の河川を通じた大阪湾のプラスチックの流出も明らかになっている。研究結果などを踏まえ、次期環境基本計画でしっかりと傘をかけて、様々な取組の方向性や施策を示していくことで、次期計画の厚みを出していけると良いのではないかと思う。
- ・将来のビジョンを考えることも重要だが、京都市がこれまで行ってきた環境政策やその実績も発信することで市民の環境への意識を高めていくことになるのではないかと思う。